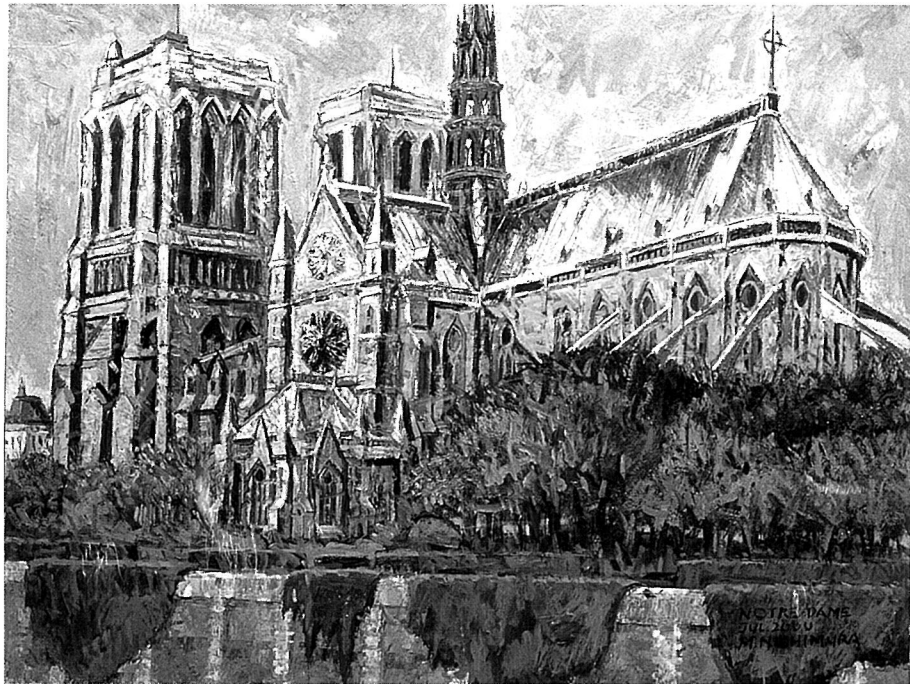


日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
〒 470-1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
電話 (0562) 93-2453
FAX (0562) 93-3079
発行責任者 竹内康浩・島 正吾
<http://www2.justnet.ne.jp/~jsch-tokai>

(題字 皿井 進筆)



「ノートルダム寺院」 西村 穰
(県立愛知病院名誉院長 元産衛東海地方会員)

巻 頭 言



「東海地方会ニュース」は、昭和59年9月に第1号が発刊され、今日まで年3回のペースで着実に刊行されてきた。本誌は地方会員の熱意と積極的な努力によって、ここに第50号を数えるにいたった。本誌の誕生をめぐって、いくつかのエピソードがあった。すでに私共は学会機関誌として、「日本産業衛生学会誌」を持っている。従ってその上にこのニュースを刊行する事は、屋上屋を重ねるのではないかとの意見もあった。しかし、学会機関誌と「地方会ニュース」では相互に目的が異なっている。新たに企画したニュースは、学会員の親睦と生の連帯感を深めることにねらいがあった。また会員のための広場づくりにも役立つような希望もあった。やがて多くの努力によっていつか本紙は地方会員にとって「待たれる地方会ニュース」としての位置を固めていった。

そして具体的企画運営をまかされた若手研究者が進んで複雑な編集実務等を克服していったことも注目に値しよう。いま「地方会ニュース」の1号から50号までを手にするとき、学会員の地道な

島 正吾

(東海地方会名誉会長 愛知産業保健推進センター所長)

努力の積み上げに対して、一種の感動すら覚える。そしてこれを契機として全国地方会のいくつかから、独自の構想によるニュースが刊行され、地域産業保健活動の推進に大きな力となった。

ところで、近時日本の産業社会の変容は目覚しく、労働者の健康問題への取り組みは一段と複雑多様化する傾向がある。労働行政面からのアプローチとしては、平成5年から今日までに全国38都道府県に、50人以上の事業場を対象とした、産業保健推進センターが設立され、また50人未満の小規模事業場には、全国労働基準監督署が中核となって、347の地域産業保健センターが設置された。そして両センターの実務に対する担い手は、いずれも日本医師会、ひいては地区医師会の積極的な支援があった。

この新しい流れは、今後の労働者の健康づくりに対して大きな原動力となることが期待される。またさらなる活動への協力・支援としては、大学研究機関、地域医師会、産業衛生学会地方会、労災病院その他の関係機関の参加があることを特筆したい。ことに「地方会ニュース」の継続的な刊行は、地方会による積極的な学術支援と相俟って、極めて重要な位置を占めることを銘記したい。

産業衛生技術部会（仮称）の発足について



土屋真知子（静岡県産業環境センター）

2000年4月北九州市で開催された第73回日本産業衛生学会で、産業衛生技術部会準備会の設立総会が開催されました。

私は都合で参加していませんが、心から設置を望んでた発起人の一人として、産業衛生技術部会の紹介をします。準備会の事務局である北里大学の田中茂先生から頂いた資料を参考にして、総会の内容についてご報告します。

総会に先駆けて、「JCO事故を斬る」と題してパネルディスカッションが開催された。麻布大学の中明賢二先生の司会で、3名のパネリストに登場願った。管理を考える立場から中央労働災害防止協会の白崎彰久氏、研究者の立場から労働科学研究所の飯田裕康氏、実務者の立場からニチアス株式会社の富田雅行氏から意見をいただいた。残念ながら時間の制約があつて、十分な意見交換が出来ず、所期の目的を十分達成することが出来なかったため、第2回の準備大会でこの課題を含めて安全衛生問題と労働者の健康確保について議論を深めることとなった。第2回の準備会は今秋10月7日（土）9：15～18：00大阪市立大学医学部学舎4階大講義室で開

催される。大会のご案内は地方会ニュースの発送時に同封される予定。

引き続き総会が開かれ、各専門分野からの設立の要望について紹介があつた。準備会発足までの経過報告の後、部会規約案が承認された。以下は設立趣旨書の要約である。

「日本産業衛生学会には、すでに産業医部会と産業看護部会とが設置されており、それぞれの専門性を向上させるために活発に活動している。しかし、衛生管理者、作業環境測定士、化学分析者、人間工学者、安全衛生コンサルタント、環境管理従事者等の産業衛生技術系学会員には、より専門性を高めることを目的とした部会が未だ設けられていない。これらの産業衛生技術者の役割は活動指針の検討、更に既設の各部会と連携して、総合的な産業衛生活動を円滑に推進し発展させること、また、職域の安全性すなわち職業性疾病や災害の第一次予防を担うことが課せられている。そのためには、この領域の部会は不可欠である。」

聞くところによると、「JCO事故」では産業衛生の専門家はあまり活躍出来なかつたらしいです。考える場に参画出来ないのは何故か。今ここで、幅広い学問分野が該当する産業衛生技術分野の役割は重要になっています。

この趣旨に賛同頂ける方々へ、多数ご参加を頂きたくお願い致します。

加藤竹男先生を偲ぶ

飯田 英男（健康管理コンサルタント）

加藤竹男先生（元ノリタケカンパニーリミテド産業医・日本産業衛生学会名誉会員）は平成12年6月5日に、79歳の生涯を閉じられました。加藤竹男先生は昭和21年9月に名古屋帝国大学医学部を卒業され、名古屋第一赤十字病院でインターンを終了後、昭和22年に名古屋大学医学部第一内科へ入局されると共に、日本陶器株式会社診療所へ非常勤勤務をされました。昭和26年から昭和31年まで名大で研究に専念された後、昭和31年6月から再び日本陶器健保組合診療所に赴任され、専属産業医としての活動を開始されました。昭和60年10月に非常勤顧問となられて平成2年9月末で同社を退職されるまで、34年余にわたってノリタケカンパニーリミテドならびに関係会社の産業衛生を指導して来られました。

筆者も昭和29年7月から東海銀行専属産業医として、ほぼ同じ時代を共に過ごし、共に故皿井進先生（元日本産業衛生学会副理事長・元東海地方会会長）のお仕事をお手伝いして来ましたので、思い出が沢山あります。

昭和39年11月12日に、名古屋市栄の日本生命ビル8階ホールで、はじめて「全国産業医懇談会」が加藤竹男先生と横山恒矢先生（故人・元名古屋鉄道産業医）が中心のお世話をされて開かれ、その準備の段階から加藤先生が事務局を担当されて大変なご努力でした。この会が、間もなく日本産業医協会へ発展し、やがて現在の産業衛生学会産業医部会へと行って行く母体でした。その経緯の詳細は「日本産業衛生学会東海地方会史（1986年）」に書かれています。

昭和40年代には、中央労働災害防止協会の健康診断体系化研究委員会委員・労働基準法に基づく健診事後措置研究委員会委員なども担当され、産業衛生学会では産業医活動検討特別委員会委員として私

たち産業医の活動指針を提示されました。

昭和50年代には日本労働安全衛生コンサルタント会の理事・常任理事・労働衛生部会長などを歴任されました。愛知窯業衛生管理研究会も昭和43年に立ちあげられて以来、研究会顧問として、この分野の現場衛生管理者の教育指導をつづけ、優秀な人材を育てられました。

こうした業績に対して、労働大臣表彰（労働衛生功績賞・労働衛生功労賞）など多くの表彰を受けられ、平成6年秋の叙勲で黄綬褒章を受章されました。加藤竹男先生は、熱意あふれる産業医のリーダーでした。ワンマン的なところがあると共に、心をオープンにされる方で、「僕の恋人」といってお孫さんの写真をいつも胸に抱いておられました。晩酌の少々入った午後7時頃、よく電話がかかって来ましたが、今はそのお声を聞くことも出来ません。天国で美酒を傾けながら、「この電話どうもかからないな」と呟いておられるお姿を想像しています。



加藤竹男先生ご夫妻
（黄綬褒章受章祝賀会にて）

学会・研究会

第 48 回職場精神衛生研究会

伸 和子 (松下電工中部地区健康管理室)

2000 年 5 月 19 日、名古屋大学医学部鶴友会館において、NKK 鶴見保健センター・廣 尚典先生より、『健康診断の枠内でメンタルヘルズ活動は可能か?』と題してご講演をいただきました。お話は、メンタルヘルズ活動を行う場の一つとして健康診断を活用するという方法もあるが、それだけがその中心であるべきではなく、又、健診を活用するメリットや逆に制限される点をよく把握し、できるだけ有効活用しましょうという内容でした。一例として、メリットの一つには健診は全員を対象にできる機会である事、制限される点としては、集団健診を行っている場合は一人当たりの時間が十分に取れない事、プライバシーの問題等を挙げられました。又、健診の際の質問紙法の活用について、目的を明確化し、その目的にあった質問紙を選ぶ事、信頼性・妥当性の高い質問紙を選択し、その導入方法を吟味する事、データの取り扱いとそのフィードバック法について具体例を挙げながら詳細にお話をいただきました。職場のメンタルヘルズ活動は事業所との連携が不可欠であり、いかに無理なく協力体制を作っていくかが重要と思われませんが、今回その一つの場合として定期健診をとりあげられ、実際に即したお話が伺え、今後の活動に大変参考になりました。

会員の異動

新入会 愛知 ①滝塚 敦 (J R 東海総合病院) ②内藤令子 (新日本製鐵) ③高柳幸司 (高柳歯科クリニック) ④今津守隆 (藤田保衛大坂文種報徳会病院) ⑤加藤ちか子 (松下電工) ⑥小田切典秀 (三河保健予防協会) ⑦大脇 徹 (大同生命保険相互会社) ⑧富田明夫 (大同特殊鋼築地工場) ⑨坪井宏仁 (愛知医大) ⑩久米裕昭 (朝日新聞名古屋本社) ⑪加藤美津子 (キャノン販売) ⑫松下兼弘 (藤田保衛大・医・公衛) ⑬亀井哲也 (藤田保衛大・医・衛生) ⑭高須靖夫 (オリエンタル労働衛生協会) ⑮堀澤六郎 (第 1 なるみ病院) ⑯星野牧子 (ブラザー健康保険組合) ⑰間瀬裕司 (名古屋市立大学病院) ⑱成田 守 (東海予防医学クリニック) ⑲藤澤正義 (アイシン精機) ⑳小嶋雅代 (名市大・医・衛生) ㉑田中真希子 (大同特殊鋼) ㉒遠山道正 (名古屋鉄道) ㉓柴田 悟 (川崎製鉄知多製造所)

静岡 ①西本みどり (日本銀行静岡支店) ②佐野奈津子 (浜松医科大学) ③寺門敬夫 (旭化成工業) ④望月統子 (大昭和健保組合) ⑤土屋政仁 (土屋医院) ⑥望月直美 (静岡市医師会附属臨床検査センター) ⑦竹下明裕 (日本たばこ産業東海工場) ⑧大石友美子 (静岡県産業労働福祉協会) ⑨下山修司 (沼津中央病院) ⑩池野智子 (静岡県ト

ラック運送健保組合) ⑪畠山和明 (村上病院) ⑫高遠哲也 (磐田市立総合病院)

三重 ①戸田崇之 (三重大・医・衛生) ②松原紀美子 (N T T 西日本東海健康管理センター) ③前田なぎさ (N T T 西日本東海健康管理センター) ④西山久美 (N T T 西日本東海健康管理センター) ⑤篠原正彦 (市立四日市病院) ⑥大熊康裕 (三重大・医・衛生)

転入 岐阜 ①後藤成生 (愛生病院) …北陸甲信越地方会より②梅津美香 (岐阜県立看護大学) …関東地方会より③上野美智子 (岐阜県立看護大学) …関東地方会より④丸太英夫 (自衛隊岐阜病院) …関東地方会より

愛知 ①佐野威和雄…関東地方会より②田所昌也 (豊川市民病院) …四国地方会より

静岡 ①伊東雅代 (キャノン販売富士裾野リサーチパーク) …関東地方会より②鈴木正夫 (N T T 東日本伊豆病院) …関東地方会より③上野裕之 (スズキ安全衛生グループ) …九州地方会より

三重 ①井出 宏 (東芝四日市) …九州地方会より

退会 愛知 ①早野順一郎 (名市大・医・第 3 内科) ②石川 猛 (名古屋セントラルクリニック) ③水野洋子 (明治生命健康保険組合) ④鳥井義夫 (オリエンタル労働衛生協会) ⑤伊藤隆之 (朝日新聞健康管理室) ⑥村井佳幸 (藤田保衛大・短大・公衛) ⑦江里義憲 (トヨタ自動車) ⑧加藤英彦 (加藤小児科) ⑨竹田鑽一 (竹田医院) ⑩上野清敏 ⑪内田孝枝 (中部電力岡崎) ⑫錦織正子 (愛知県立看護大学) ⑬白田章則 (名市大・医・衛生) ⑭林留美子 (愛知県衛生研究所) ⑮寺沢亜希浩 (コーリン) ⑯小篠 築 (豊川 青山病院) ⑰山崎信代 (旭ガラス) ⑱伊藤健吾 (国立療養所中部病院長寿研) ⑲大塚 亨 (全国土木建築保健組合)

静岡 ①鶴我志津 (キャノン販売富士裾野リサーチパーク) ②柴田 徹 (旭化成工業大仁支社) ③山内 晃 (清水市立病院) ④川村 淳 (浜松労災病院) ⑤荻原正雄 (大昭和製紙)

岐阜 ①小田政行 (小田内科)

三重 ②前田郁子 (近畿健康管理センター)

これからの諸行事予定

1. 第 49 回 職場精神衛生研究会

日 時: 平成 12 年 10 月 13 日 (金) 14:00~16:00

場 所: 名古屋大学医学部鶴友会館 2 階大会議室

テーマ: 「わが社における心の健康対策」

話題提供: 斉藤政彦先生 (大同特殊鋼 星崎診療所)

2. 第 28 回有機溶剤中毒研究会

日 時: 平成 12 年 10 月 27 日 (金) ~ 28 日 (土)

場 所: 鳥羽・松珠荘 (松下電器健康保険組合)

内 容: 特別講演 1. 環境因子と生殖機能

前多敬一郎 (名大・大学院生命農学研究所)

特別講演 2. 洗浄剤を中心とした有機溶剤の動向と展望

北村健郎 (旭硝子機能化学品事業本部)

3. 平成12年度日本産業衛生学会東海地方会学会

日 時：平成12年11月24日 (金) 9:30~17:00

場 所：岐阜会館

内 容：特別講演1. これからの産業衛生の課題

竹内康浩 (名大・大学院医学研究科
・環境労働衛生学)

特別講演2. 産業保健と地域保健との強い連携の必要性

岩田弘敏 (岐阜産業保健推進センター)

4. 第35回アレルギー・免疫毒性研究会

日 時：平成12年12月9日 (土) 13:00~17:30

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館

参加費：2,000円

内 容：特別講演 アトピー疾患の予防戦略の構築

白川太郎 (京大・医・社会健康)

特別報告1. 症例収集によるアレルギー疾患の実態と今後の課題

上田 厚 (熊大・医・衛生)

特別報告2. アレルギー性角結膜疾患

平野耕治 (名大・医・眼科)

特別報告3. 皮膚アレルギー疾患の最近の話題

松永佳代子 (藤田保衛大・医・皮膚科)

特別報告4. じん肺と慢性壊死性アスペルギルス症

宇佐見郁治 (旭労災病院・呼吸器病センター)

特別報告5. アレルギー性呼吸器疾患とパッチテスト

早川律子 (名大・医・環境皮膚科)

特別報告6. 感受性金属の免疫毒性

長岡 芳 (藤田保衛大・医・公衆衛生学)

地方会理事会

平成12年度第1回理事会

日 時：平成12年5月16日 (火) 15:00~16:10

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館 2階大会議室

出席者：22名

報告事項

- (1) 事務局からの報告事項 (柴田)
- (2) 本部からの報告事項 (竹内)
- (3) 関連学会・研究会
- (4) その他

協議事項

- (1) 平成12年度日本産業衛生学会東海地方会総会並びに研修会 (松田)
- (2) 総会議案書 (柴田)
- (3) 平成12年度東海地方会学会 (井奈波)
- (4) 関連学会・研究会
- (5) 地方会ニュース 50号 (谷脇)
- (6) その他

平成12年度第2回理事会

日 時：平成12年7月18日 (火) 15:00~16:00

場 所：名古屋大学医学部鶴友会館 2階大会議室

出席者：25名

報告事項

- (1) 本部・事務局からの報告事項 (柴田)
- (2) 平成12年度日本産業衛生学会東海地方会総会並びに研修会 (松田)
- (3) 関連学会・研究会
- (4) その他

協議事項

- (1) 日本産業衛生学会定款改定について (竹内)
- (2) 地方会ニュース 50号 (長岡)
- (3) 平成12年度東海地方会学会 (岩田)
- (4) 地方会関連学会・研究会
- (5) その他

編集後記

東海地方会ニュースは、本号で記念すべき第50号を迎えることができました。私自身、編集委員に参加させていただいたのは、つい最近ですが、長年にわたり発行を続けてこられた先輩編集委員の皆様方のご努力に、敬服いたします。今回は、増頁で特集を組み、記念号にふさわしい充実した内容となったと思っておりますが、いかがでしたでしょうか？50号を節目として、これから地方会ニュースも、新しい時代に即して生まれ変わっていかねばなりません。一層魅力ある紙面づくりをめざして、編集委員一同努力していきたいと思っています。内容についてのご意見・アイデア等、ぜひ委員までお寄せいただきますようお願い申し上げます。 (寺澤哲郎)

次回発行 平成13年1月1日

編集責任者 谷脇弘茂 (藤田保衛大)

編集委員 (五十音順)

| | |
|--------------------|-----------------|
| 浅井八多美 (ヤマハ) | 市原 学 (名大) |
| 加藤保夫 (岐阜県産業保健センター) | 後藤門治郎 (住友軽金属) |
| 五藤雅博 (旭労災病院) | 後藤義明 (ブラザー工業) |
| 榊原久隆 (名大) | 高柳泰世 (本郷眼科) |
| 城 憲秀 (名市大) | 巽あさみ (藤田保衛大) |
| 寺澤哲郎 (東海銀行) | 長岡 芳 (藤田保衛大) |
| 松田 元 (松下電工四日市) | 松本忠雄 (愛知県江南保健所) |
| 武藤繁貴 (聖隷健診センター) | 山田琢之 (愛知医大) |
| 吉田 勉 (藤田保衛大) | 渡邊美寿津 (愛知医大) |

東海地方会事務局ホームページ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hp/hygiene/main.html>